

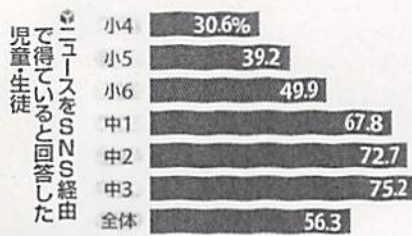
大野一心

NO.23

令和4年1月28日(金) 文責：校長 諸熊 修一

気になる新聞記事より

中3の75%「SNSでニュース」

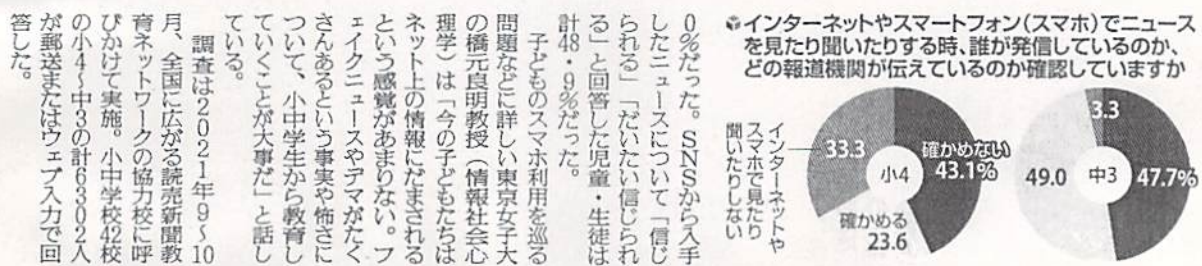


調査は、メディアの多様化が子どもたちのニュースに対する意識をどのように変えたのかを探る目的で実施した。SNSからニュースを得ている児童・生徒の割合を学年別に見ると、中3が75.2%だった。最も低い小4でも30.6%で、学年が上がるにつれて増加した。見聞きする情報の発信源を確認するかどうか聞いたところ、「確かめていない」は小4が43.1%で、中3も47.7%と半数近くだった。ただ、「確かめていない」と答えたのは小学生より中学生の方が多く、中3では49.9%だった。

読売新聞社と電通総研が小学4年～中学3年の計約6300人に共同で実施した調査で、日常的にスマートフォンなどでSNSからニュースを得ている児童・生徒が56.3%に上ることが明らかになった。半数近い47.0%は、誰が情報を発信したのか、情報源を確かめていないこともわかった。

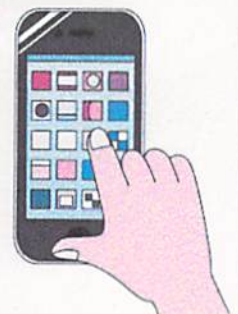
本社・電通総研共同調査

△関連記事特別面▽



読売新聞(R4.1.27)より

私には大学生と高校生の3人の娘がいますが、上の新聞記事にあるように新聞はほとんど見ません。ニュースはスマートフォンで SNS から情報を得ています。新聞記事によると、SNS から入手したニュースについて、「信じられる」「だいたい信じられる」と回答した児童生徒は約半数にのぼっています。SNS には情報が氾濫していて、フェイクニュースやデマも多くあります。例えば、2016 年 4 月に起きた熊本地震では、熊本地震の直後に、街中を歩くライオンの写真とともに次のようなデマが Twitter に投稿されました。「地震のせいでの近くの動物園からライオンが放たれた」。このツイートは実に 2 万人以上にリツイートされたそうです。その結果、熊本市の動物園には問い合わせが殺到したということです。



「以前は情報の信頼性は、新聞やテレビなど媒体ごとに判断できて分かりやすかったが、メディアの多様化により今は情報源を確認したり、正しく信頼できる情報を見分けたりすることが昔と比べてとても重要になっているのに、スマホ利用者の子どもや大学生、大人でもその意識が乏しいように感じる」と、慶応大学教授の鈴木秀美氏は警鐘(けいしょう)を鳴らされています。

上記の調査結果からは、家庭や学校の先生とニュースについてよく対話する子どもほど、学年が上がるにつれて、情報の発信源を確認するようになる傾向が見られるそうです。今は、誰でも簡単に情報発信ができる時代です。情報発信には責任が伴うということ、受け取った情報はそのまま信じ込まないということを、ぜひご家庭でも話題に出していただけたらと思います。